

令和2年度 第4回二次交通分科会

議事録

■開催日	令和 2年 9月 28日 (月) 15時30分～16時30分		
■開催場所	スパティオ小淵沢 1階 宴会場	■出席者	12名 (別紙出席票を参照)
■概要報告	<p>◇開会</p> <p>◇「地域の観光交通を計画する技術に関するミニレクチャー～その1」</p> <p>&lt;前回の内容&gt;</p> <p>① ハヶ岳観光圏エリアで住民と来訪客の動きのデータが必要。いろんな施設・地域で共同してできればいい。</p> <p>② 3市町村で過去に住民系の移動調査をしているものがあればお借りして利用分析できないか。</p> <p>③ 交通事業者と連携し展開していく時に実際のデータを見ながら事業者と話をする必要があるであろう。</p> <p>Maasを随分紹介してきたが、観光では行った先で何をやるかをMaasのしくみに入れれば、交通と観光とが一体となったMaasというサービスを展開できる。観光客がどのくらいそういったサービスにお金を払う余地があるのかを抑えておく、その先、事業化に繋がる。</p> <p>&lt;今回&gt; どういうコンテンツをやるか今日は総論。(詳細は資料参照)</p> <p>PPT資料「地域の観光交通を計画する技術 その1 交通計画の考え方とその観光適用」に基づいて説明があった。</p> <p>◇意見交換 (参加者⇒清水アドバイザー)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光客が目的地を選ぶ段階で、二次交通の比重はかなり小さいのではないかと。絶対的な魅力が観光施設・資源だと思う。⇒ハヶ岳の独特の立地。大部分はほとんど車で来る。どのマーケットを考えるかが非常に重要。観光側の取組みでバランスをうまくとれるかもしれない。自由に動けるために車できているので、鉄道で来た場合、乗り捨てられるサービスがあればいいかもしれない。各事業者から、どういう課題があるか調査させて頂きたい。</li> <li>・小淵沢駅からロイヤルホテルまでかつて繋いだが、遠いと言われた。どの辺までが、許されるのか。⇒大体、観光系の二次交通の周遊バスの行政の支援は補助金が切れると終わってしまうことが多い。最初の段階で事業化の見込を示しておく必要がある。観光客と住民が混在するバス路線で20分余分にかかる住民の意見が強くなる事例がある。価格設定と回り方のバランスかもしれない。</li> <li>・ビッグデータは既存のものに対してなので、観光客目線。東京からの利用者ニーズと地域のニーズが合致しない。地域がどういう提案をしたいのか。マッチさせる方法もまたお聞きしたい。二次交通、バス・タクシーは便利である必要はない。ゆったり乗って頂き、より地域の活性化につながるのではないかと。⇒住民と観光客が混在したときに価格を、少し観光客に負担して頂いて、良い路線にすることも提案してきた。違う形でデータをとってみるのもやらないといけないのではないかと。意図的にアトラクションとして作り出すのも必要かと思う。</li> </ul> <p>◇閉会</p>		
	■特記事項 (写真・模様等)		

